

2024年5月30日

各 位

会社名 新報国マテリアル株式会社
代表者名 代表取締役社長 成瀬 正
(コード番号 5542 東証スタンダード市場)

Web IR セミナーご質問のご回答について

平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

過日4月17日にWebIRセミナーを実施いたしました。多数のご視聴ありがとうございます。下記にセミナー当日ご回答申し上げることができなかつたご質問並びに後日ご質問頂いたものにつきましてご回答申し上げます。

なお、質問内容が同様なものも多数ありましたので、一部ご質問の趣旨に添い、統合及び修正している部分もございますので、ご了承ください。

引続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

また、WebIRセミナーのアーカイブ動画は以下よりご視聴頂けますので、合わせてご確認ください。

<https://kabu.com/investment/movie/irseminar/default.html>

以上

【質問1】（配当方針について）

- 配当方針についてご教示ください。本日の説明を聞いた限りでは、御社はまだまだ発展途上の会社であり、配当を出すのではなく、その分をより一層研究開発に回す方が有効ではないかと感じました。
- 今後の株主還元についてどうお考えか聞きたいです。
- 将来に渡り、現状と同程度（東証平均以下）の配当性向を維持される予定なのでしょうか。また、その理由についてお聞かせください。

【回答】

配当につきましては、今後も持続的成長により継続的に株主の皆様にご満足いただける還元を実施したいと考えております。持続的成長のためには、まず強い財務基盤を確立することではありますが、現在自己資本比率は65%を超えてほぼ達成出来ました。次に成長するための投資です。設備投資、研究投資、人的投資です。設備投資は積極的に実施しており、また研究投資は2012年に対し、2023年には3.5倍の2億8千万円となっています。人的投資は、「企業は人なり」をベースに水準を上げてきましたが、さらに少子高齢化社会の中で、積極的に取り組む課題であります。このように今後も投資を積極的に行うことにより高収益会社への好循環を生んで、株主の皆様にご報いたいと思っております。他社との比較や世間の水準は参考にはしますが、当社の経営の状況を考慮して配当を決めていくのが真の経営と考えております。このような考え方の中で配当は、10円、20円、30円、40円と着実に増加させて参りました。今後は中期目標の配当90円を目指して全力をあげて参ります。

【質問2】（株価について）

- ・現在の株価をどのようにとらえていらっしゃいますか？
- ・個人株主との会話についてお伺いしたい。

【回答】

現状の株価についてはPBRの観点からも、更に高める努力が必要だと考えております。前問の配当方針でも示したとおり今後の株主還元につきましては、中期目標で示しましたとおり配当90円を目指して全力をあげて参ります。

個人株主様との会話については、今回のWeb-IRでの会話や、当社株主総会にて実施していきたいと考えておりますので、是非ご参加いただければ幸いです。

【質問3】（時価総額について）

- まだまだ時価総額40億台と低いと思います。プレスリリースや適時開示が少ないように思えるのですが約4000社ある上場企業の中で個人投資家の目にとまるためにはIRの強化が必要かと思いますがいかがでしょうか。

【回答】

今回のようなWeb-IRの実施や、HPの充実等当社認知度の向上に資するIR施策を継続的に実施してまいります。

【質問4】（会社の今後の展望について）

- 2029年において会社の目指すべき数値目標を示しておられます。その先、例えば10年後の2034年など、もう少し先を見据えた向けた御社の成長目標、どのような会社でありたいなどの将来像をとらえておられたらお聞かせ願いたい。
- 会社の今後の展望、成長性について考えを聞きたい

【回答】

10年先の目標というご質問ですが、変化の激しい時代であり、10年先を見通すことは困難です。まず5年先の目標に向かって全力を尽くし、その延長線上にインバー合金グローバルニッチ世界一を実現することで、10年先の視野が開けて来ると考えております。

【質問5】（販売見通しについて）

- ・半導体関連需要は現在活況ですが、今後の見通しはいかがでしょうか？

【回答】

複数の調査会社が2030年までの世界半導体世界市場に対し年平均成長率が10%以上であると予測しており、従来からの牽引役であるスマートフォンやパソコン以外にも、生成AI、次世代通信、IoTおよびEVなどの新しい分野が伸長することで中長期的に見通しは明るいと考えております。

【質問6】（宇宙・半導体業界について）

- ・宇宙・半導体業界への展開と利益成長の関連性。他社との優位性について知れたら嬉しいです。

【回答】

宇宙業界に対しましては、近年具体的に当社インバー合金採用確定のプロジェクト案件が増加しておりますので、今後実績を増やしていけるものと考えております。同時に宇宙・天文に対する研究開発案件も増加しておりますので、JAXAや衛星開発関連企業との協業を継続して参ります。半導体業界の展望につきましては、年平均10%以上の伸びを予測している業界でありますので、当社主力の半導体製造装置向け低熱膨張合金（インバー合金）につきましても、成長を続ける事が可能かと思われれます。他社との優位性については、当社インバー合金は自社で開発しました高機能合金でありますので、他社と比較しましても優位な金属素材であると考えております。

【質問7】（新規拡販について）

- （1）政府が核融合への投資を積極化する方針ですが、貴社製品は核融合の領域へは参入できないのでしょうか。
- （2）TSMCの九州進出は、何か影響がありますか？

【回答】

- （1）核融合に対する当社機能合金でのニーズはまだ見えておりませんが、高い技術の追求には高性能の金属材料が必要になる可能性が高いと思いますので、技術動向を見極めながらニーズがあれば、参入を検討していきたいと考えております。
- （2）積極的な半導体設備投資が実施され、二次投資以降も具体的に計画されていることから、当社主力製品である半導体製造装置向け低熱膨張合金に良い影響が出てくることを期待しています。

【質問8】（新規拡販）

- ・インバー合金の新分野での需要見通しと今後の売込みの方針について知りたい。光量子コンピュータやレーザー核融合などの光子やレーザー光を用いた分野では、温度変化による影響が非常に大きく、光子やレーザー光の精密制御にはインバー合金が非常に有用だと思われるがそのような分野での需要見通しと今後の売り込み方針について教えて頂きたい。

【回答】

守秘義務等により多くは書けませんが、核融合やレーザー光を活用した開発への関与は御座いますので、今後新たに伸長産業となる可能性のある光量子コンピュータに対し、当社インバー合金が役立つ可能性については大いに期待しているところであります。光量子コンピュータの製造に関する技術的な方式がまだ定まる段階には有りませんが、方向性によっては使用する素材や装置が低膨張であることが有効だと思われるので、当社インバー合金の活躍の場となるのではないかと期待しています。

【質問9】（3D事業について）

- ・3Dプリンターは収益に寄与するのか。26億円の現預金は死蔵されているのではないかと、ちゃんと回転しているとは思えない。サッカークラブへの寄付はやめるべきだ。当社の顧客は限られた企業であり、一般向け広告宣伝費は不要。一株主だけの利益になっており不公平である。

【回答】

3D積層造形技術についてですが、近年の3Dプリンター技術の急速な発展と多様化により、お客様側でのニーズも変化してきており、これに対応すべく当社の製造技術の第3の柱として、3D積層造形技術の戦力化を進めます。積層造形機の最適機種は今年度中に導入予定ではありますが、装置メーカーとの技術提携により、当社独自製品の開発を更に加速させ、お客様のニーズに応え、コスト・品質を最適化した商品の実用化が可能になると確信しております。

本社は川越市の住宅地にて、事業活動を行っており近隣地域住民の一員として、地域とともに発展していきたいと考えております。地域から愛される会社へ、地域を愛する会社としてこれからも皆様とともに事業活動を行ってまいります。

【質問10】（原材料高騰の影響について）

- ・燃料や材料費の高騰はどのくらい影響があるものでしょうか？
- ・円安が進んでいますが、経営に影響はありますか？

【回答】

現在のところ燃料や材料費の高騰による大きな影響はありません。

主力製品である低熱膨張合金（インバー合金）の原材料であるニッケルなどは、市場価格と為替によって決定しますので、為替の影響は受けますが、市場価格と連動するサーチャージ制の販売形態や、高騰分を価格転嫁するなど販売価格を見直しており、影響を最小限にとどめる施策は講じております。

【質問11】（当社技術について）

- 低熱膨張合金がすごい。というのはなんとなく分かったのですが、
 - （1）今後においてもニーズはあり続けるのでしょうか。そしてそれはなぜでしょうか。
 - （2）ニッチトップな技術なのであれば、もっと収益率が高いのかと思うのですが、それほどではないのはなぜでしょうか。

【回答】

- （1）精密産業機器において部品の熱膨張は、装置の精度を低下させる要因であります。当社の低熱膨張合金は、お客様の様々な環境、用途に応じた熱制御が可能であり装置の精度維持に貢献しております。今後益々精密産業機器は高精度を求められると考えられますのでニーズはあると考えております。
- （2）お客様にインバー合金の価値を認めて頂き、更なる収益増を目指してまいります。

【質問12】（事業内容・SDGsについて）

- ・会社名も初めて知りました。事業内容やSDGsの取り組みなどについてもお伺いできればと思います。

【回答】

事業内容は、特殊鋼の開発、製造および販売となっており、他社とは差別化されたオリジナルの高機能合金を自社開発、製造、販売を一貫して行っております。当社主力製品は熱を加えても膨張しない合金「インバー合金」を主力としており、百万分の1ミリの精度を必要とする半導体製造装置、液晶・有機EL製造装置用の部品として使われております。

SDGsについてでございますが、当社の製造工程においては電気炉を使用しておりますので、直接的には二酸化炭素の排出は少ない業種ではあります。

当社も2050年のカーボンニュートラルに向けてSDGs推進チームを作り活動をしております。直接削減活動として、再生エネルギーの活用を行い、クリーン電気を購入し、環境に良い生産活動を行ってまいります。自社材のリサイクル等もさらに積極的に行います。

間接削減策としては、当社開発材にてお客様のカーボンニュートラルに貢献してまいります。具体的には、当社開発材であります焼却炉用耐熱耐摩耗材は、お客様の設備の長寿命化に寄与しております。このような取り組みを評価頂き、本年2月に埼玉県知事より環境大賞奨励賞を授与されました。

これからも当社は、カーボンニュートラルに向けて当社が所有する森を「憩いの森」として開放するなど地域社会とともに邁進してまいります。

【質問13】（後継者について）

- ・後継者の育成についても検討しないといけないと思うのですが、その点どのように考えているのでしょうか。少なくとも後継者には今の経営方針を引き継ぐ人を指名して欲しいです。
- ・御社は技術立社を標榜しており、これから海外拡販に力を入れるとのことですので、国際経験豊富な技術系の若手人材を経営部門に入れるべきかと思いますが、現状の経営陣はかなり年齢が高いように思います。この辺は改革をする予定はあるのでしょうか？最近の海外企業では、多くの技術系若手が経営に携わっていると思います。

【回答】

中期目標における「インバー合金グローバルニッチトップ」のスローガンは全社員一丸となって掲げた目標であり、経営方針については社員一同共有しております。少数精鋭の、株主の皆様へ報いる、従業員の幸せを実現できる後継者を育成中であり、2年前には若返りを図り、若手の取締役を登用する等の施策を実施いたしました。今後も様々な状況変化に対応できるよう若手の積極登用を検討してまいります。

また海外拡販に注力する方針に伴い、近年では海外での経験が豊富な研究開発人材を採用するなど準備をしてまいりました。